

とちぎ夢大地応援団活動報告（10月12日実施）

栃木市大柿地区

昨年第1回目の夢大地応援団を実施した栃木市都賀町大柿地区で10月12日、2回目の応援団が、応援団員20名、県下都賀農業振興事務所・栃木市都賀総合支所関係者7名、地元関係者10名の合わせて37名が参加して行われました。

開会式では、応援団員として参加した会員番号000番の南斎好伸県農政部次長があいさつ。そのあと耕作放棄地の刈り払いや山道の修復等3カ所に分かれて作業を行いました。

当日は、宇都宮地方で最も遅い真夏日を記録した日で、30度を超す猛暑の中の作業となりましたが、参加者全員汗だくで頑張り、地元の期待に応えました。

刈り払いを行ってきれいにした約14aの耕作放棄地跡地には、これから小学生たちが小麦をまいて来年度んやピザに加工し、ピザを焼く燃料もこの地の山から集めた木々を使うといったことを体験することで、「食べることはどういうことか？」を学習する場にするそうです。

ジャガイモ入り焼きそばや唐揚げ、揚げ餅が用意された昼食のあとは、交流会が行われました。

まず、鳥獣管理士の阪本勝憲さんが『大柿の里山で起こっていること』と題して講話。「耕作放棄地に草刈りで人が入ることにより猪や鹿は警戒心を持つので、獣害を防ぐことができる」と話していました。また、NPO法人自然史データバンクアニマnetの渡辺秀昭さんが耕作放棄地を活用した自然体験プログラム作成など会の活動内容を説明しました。最後に、大柿の郷をまもる会代表の田中洋一さんが「この大柿の里山をみんなの遊び場、みんなの楽しめる場所にしたいので応援をよろしく」の言葉で締め、交流会を終えました。



季節外れの暑さだったので作業前に記念撮影を行いました



あいさつする南斎県農政部次長(右から 2 人目)



草刈りの現場





山道の修復現場。土砂が流れて堆積した土をスコップで除去していきます



交流会のようす